



墨田区

HPアドレス

<http://www.city.sumida.lg.jp/>

| | |
|---------|----------------------|
| 面積 | 13.75km ² |
| 世帯数 | 132,905世帯 |
| 人口 | 251,182人 |
| (うち外国人) | 9,100人 |
| 予算 | 1,063億円 |
| 職員数 | 1,974人 |

※平成24年8月1日現在

※平成24年度一般会計当初予算

歴史・見所・名所

墨田区は、昭和22(1947)年3月15日に、北部区域の向島区と南部区域の本所区が1つになって誕生しました。区名は、昔から広く人々に親しまれてきた隅田川堤の通称“墨堤”の呼び名の「墨」と、“隅田川”の名の「田」の2字を選んで名付けられました。

区内には、隅田川花火大会、墨堤の桜、大相撲、伝統工芸、史跡などの伝統文化が数多く残されており、江戸からの伝統が引き継がれている墨田区ならではの「下町情緒」がまちの至る所に感じられます。

さらに、区内で活躍した文人墨客も数多く、碑なども多数存在するほか、墨田区で生まれた葛飾北斎を顕彰する「すみだ北斎美術館」の開設備を進めています。

また、東京スカイツリー®が平成24(2012)年5月22日「押上・業平橋地区」に開業しました。世界一の高さ(634m)の自立式電波塔となりました。それにともない、東京スカイツリー周辺地区の整備や隅田川を中心とした水辺空間の再整備・有効活用を進めたことで、東京東部地域の一大観光拠点となり、国内外から多くの来客が訪れています。

概要

地理

墨田区は、東京都の北東部に位置し、東は旧中川を境に江戸川区、西は隅田川を境に荒川・台東・中央区、南は北十間川・横十間川・堅川などを境に江東区、北は旧綾瀬川を境に足立区、荒川を境に葛飾区に接するなど、その周囲の多くを水辺に囲まれたまちです。区域は東西4.77km、南北6.12kmと南北にやや長く、面積は13.75km²です。地形的には、海拔最高4m、最低マイナス1.2mの平たんな低地で南西部から北東部にかけて緩やかに傾斜しています。また、地質はすべて砂と粘土まじりの沖積層からなっています。

人口推移

戦後における墨田区の夜間人口は、国勢調査によると昭和35(1960)年をピークに平成7(1995)年まで一貫して減少傾向が続いていましたが、その後、都心回帰などを背景に微増に転じ、住民基本台帳及び外国人登録によると、平成22(2010)年8月1日現在の人口は250,003人となり、区の基本計画で定めた目標人口である25万人を超えました。

区の特性・特徴

墨田区は、隅田川をはじめ豊かな水辺に恵まれた、江戸の歴史や文化が薫るまちです。また、下町らしい地域コミュニティが色濃く残り、中小製造業などものづくりのまちの特徴も有しています。



八代将軍徳川吉宗が植えたと言われる墨堤の桜は、地域の人々によって現在に受け継がれています。



2012年5月22日に開業した東京スカイツリーを核とした新しいまちづくりが始まりました。(東武鉄道(株)・東武タワースカイツリー(株)提供)

主要課題

(1) 『すみだ』らしさの息づくまちをつくる

「すみだ」は、歴史と文化に恵まれた地域特性を有しており、それらを保存・継承するとともに、新しい文化を創造・発展させ、新たな担い手を育成することが求められています。

(2) 地域で快適に暮らせる『すみだ』をつくる

地域で快適に暮らすため、職・住・遊が調和する土地利用を進め、居住環境の向上が求められています。

(3) 新しい事業が起き、人が集まる『すみだ』をつくる

優れたものづくりの技術や技能を継承し、ニーズに合った付加価値の高い製品や技術を発展させるとともに、東京スカイツリー開業という千載一遇のチャンスに合わせ、区内商業の活性化が求められています。

(4) 安心して暮らせる『すみだ』をつくる

「次世代育成支援行動計画」の推進や、高齢者・障害者一人ひとりが持てる力を発揮して自己実現や社会貢献ができるような活動の場の整備が急務です。小・中学校施設等の耐震化は、児童・生徒の安全で良好な教育環境や災害時の避難所の確保の観点からも重点的に取り組んでいます。環境に対する取組みについては、「環境基本計画」に基づき環境の共創を実践する諸施策の展開が求められています。

(5) 区民と区が協働で『すみだ』をつくる

区民自ら地域の課題の解決にあたっていくため、身近な問題を互いの助け合いで解決しようとするコミュニティ意識を醸成し、地域活動を実行していく区民や団体の育成が求められています。

将来展望

地方分権の流れの中で、それぞれの自治体ごとに地域特性を生かした個性あふれる施策の展開が求められています。墨田区では「すみだの未来」を切り開くべく、新たな時代に向けて、多くの区民、すみだにかかわる多くの人々の英知を結集し、平成17(2005)年11月に新しい「墨田区基本構想」を策定しました。今後、この基本構想に掲げられた「～水と歴史のハーモニー～人が輝く いきいき すみだ」というまちづくりの基本理念を区民と区が共有するとともに、それぞれの役割分担のもと一緒に力を合わせ、魅力や活力あふれる「すみだ」をつくっていきます。基本構想のキーワードは「協治(ガバナンス)」による地域社会づくりです。

また、観光や産業だけでなく、防災、教育、福祉などすべての区の施策に影響を与える東京スカイツリー開業後の本区の変化を見つ、墨田区基本計画(平成23(2011)年12月改定)の実現に向けた施策を推進していきます。



隅田川花火大会

夏の風物詩として毎年90万人以上もの人が夜空を彩る絢爛(けんらん)な花火の競演に酔いしれます。



国技館5,000人の第九コンサート
墨田区の「音楽都市づくり」を象徴するコンサートとして毎年開かれているものです。



平成12年に人と地域と環境にやさしいまちを目指した「すみだ やさしいまち宣言」を行い、さまざまな取組みをしています。